

令和5年度 第2回小松島市ごみ処理施設整備手法等検討委員会 議事要旨

日時：令和5年5月29日(金)13:00～

場所：小松島市役所 2階議会委員会室

出席委員

上月委員、小川委員、蔭山委員、津川委員

会議に付した案件

- 議題（1）ごみ処理の現状における分析結果
- （2）処理方式の選定について
  - （3）ごみ処理施設の規模について
  - （4）施設整備候補地の一次選定について
  - （5）施設整備候補地の二次選定について
  - （6）施設整備候補地の三次選定評価項目について

議事要旨

委員の半数以上が出席しているため、委員会が成立していることを確認した。

議題（1）ごみ処理の現状における分析結果

ごみ処理の現状における分析結果について報告。

- 委員意見： エコステーションの利用状況はいかがか。紙・布類の減量に寄与するものか。
- 事務局： 開始したばかりであり、回収量の報告がまだである。布類回収ボックスは1日で満杯となることがある。エコステーションについても同様に2日程度で満杯となる。衛生センターへの聞き取りや今後のデータ収集によって、その効果を検討していきたいと考えている。
- 委員意見： 他市町村と比較すると、資源ごみが少ないと考える。燃やすごみが定期収集のため、紙類が資源として回収されていないと想定される。できる限り資源ごみとして回収できるよう、検討していく必要がある。
- 事務局： 他市町村では分別区分が異なるため、一概に比較することは難しいが、分別区分も今後の検討事項と認識している。
- 委員意見： 一人一日あたりのごみ排出量も他市町村と比較しても多い。施設整備にあたっては、ごみ減量についても啓発できるようにしてもらいたい。

## 議題（２）処理方式の選定について

処理方式の選定について報告。

- 委員意見： 好気性発酵乾燥方式は廃プラスチック類を混合するとあるが、どこから調達するのか。燃やせるごみの中には革製品（靴）もあり、金属類も混在するが、処理に影響はないか。そのような異物は処理に影響を及ぼさないか。また、分別項目を変更する必要があるか。
- 事務局： 現在、分別回収している廃プラスチック類を混合する。現状の分別区分でも処理可能であるが、見直しについても今後検討していく。異物については、選別して回収可能である。
- 委員意見： R D F では保管時に危険性があると記載されているが、好気性発酵乾燥方式は大丈夫か。好気性発酵乾燥方式は災害廃棄物を受け入れできないとあるが、発災時はどのように対応していくか。
- 事務局： 好気性発酵乾燥方式でも、避難所ごみや破砕された木くず類は処理可能である。災害廃棄物は膨大な量が発生するため、基本的には他自治体や民間施設へ委託する方針としている。好気性発酵乾燥方式は発酵してから成型するため、比較的発熱は少ないと考えている。
- 委員意見： 災害廃棄物は膨大であり、どの処理方式でも処理は難しいと考える。好気性発酵乾燥方式は避難所ごみ等も受け入れ可能であるため、評価を上げてよいと考える。また、成型の際にプラスチック類を混合するとあるが、加熱が必要か。
- 事務局： 圧縮の際に発熱することで廃プラスチック類が接着剤の役割となる。
- 委員意見： 加圧の際に電力が必要となる。好気性発酵乾燥方式を採用した場合の二酸化炭素排出量について定量的に示すことができるのであれば、お願いしたい。好気性発酵乾燥方式を採用した場合、最先端の施設となるためリサイクル率が 100%となるよう、より一層啓発を進めてもらいたい。
- 委員意見： 頂いた意見をもとにさらに啓発を進めていきたい。
- 委員意見： 廃プラスチック類についても分別を行うことで、意識向上につながると考える。
- 委員意見： 好気性発酵乾燥方式の副生成物は利用先の熱量等の受入れ条件とマッチするのか。また、受け入れ先は市内にどの程度あるか。
- 事務局： 市内外問わず広く受け入れ先を確保したいと考える。受け入れ先のカロリーに沿うようにプラスチック類の混合量を変える等で対応可能と考える。
- 委員意見： 環境省では、大規模なボイラーを有する施設は熱量が低くても受け

入れを行っていく方針と聞いている。今後、受け入れ先は多くなると考える。

委員意見： 市民と行政が一体となってごみ減量を進めていくことを前提に、最先端の技術である好気性発酵乾燥方式を採用することに合意する。

### 議題（３）ごみ処理施設の規模について

ごみ処理施設の規模について報告。

委員意見： 一人当たりのごみ量を減少させた場合については検討しないのか。

事務局： 過去の実績に基づいて予測している。減量化を推進する場合もケースとして考えられるが、減量化が確実に進むか不明であることから現段階では現状推移の場合を検討している。

委員意見： 幅を持って提示できるとよい。その際には減量化を達成できた場合のインセンティブ（処理費用が下がることにより、他の市民サービスが向上する等）を示せるとよい。

委員意見： 施設規模を市民に提示することで、ごみ減量について意識付けできると考える。

委員意見： インセンティブを示すということは良い提案である。施設規模が小さくなることで、建設費も下がるため大きなメリットとなる。

委員意見： ごみ減量が確実に実施できるかは不明であるが、最大限努力していく必要がある。

### 議題（４）施設整備候補地の一次選定について

施設整備候補地の一次選定について報告。

### 議題（５）施設整備候補地の二次選定について

施設整備候補地の二次選定について報告。

委員意見： 都市計画マスタープランが更新される。①はインターチェンジができることにより、商業地域が入ってくる可能性がある。④と⑦の間には小学校が新設されることから、現在の調整区域から変更となる可能性もある。この点も含めて検討を進めてほしい。

事務局： 三次選定の際に、総合評価として必要に応じて内容を追加したい。

委員意見： 選定された候補地と選定されていない候補地は、ほとんど点差がない。選定作業としてはこの方法で問題ない。例えば道路までの距離が短い、浸水区域に含まれていない等の特徴を示しながら作業を進めてほしい。

事務局： 現地確認等を行ったうえで、不具合等が生じた場合は二次選定に立

ち返って検討を行いたい。

委員意見： 本市は面積が狭いという特徴があるので、慎重に作業を進めてほしい。

委員意見： 二次選定結果について、事務局提案どおりとする。

#### 議題（６）施設整備候補地の三次選定評価項目について

施設整備候補地の三次選定評価項目について報告。

委員意見： 項目について異論はない。実際に候補地を見に行くことは可能か。

事務局： 委員の希望があれば見て頂くことも可能である。方法については、事務局で検討する。

委員意見： 事業費リスクはどのような事項があるか。

事務局： 現地踏査等により、どのような基礎構造とすべきかを検討し事業費増のリスクとして評価する。

委員意見： 津波の浸水についてはかさ上げを行うということでよいか。

事務局： かさ上げを行い対応する。

委員意見： 迷惑施設としてではなく、地域還元等ができる施設としてほしい。この点も経済性に反映できるとよい。